

紅花を活用した商品展開と従業員派遣による地域連携・普及活動

活動内容



「もがみべにばな」花卉由来の赤色色素を用いた化粧品「小町紅」をはじめとする「紅」商品の製造販売を行うとともに、山形県最上川流域における紅花の収穫や紅餅づくり活動に従業員を派遣し、継続的に地域の取組を支援しております。また、新入社員研修として同活動の体験を実施するほか、自社で運営する「紅ミュージアム」での接客や各種講座・ワークショップ、SNS等を通じて農業遺産地域の普及・発信にも取り組んでおります。

地域の声



当地域で現在栽培されている紅花「もがみべにばな」は、長い期間かけて選抜・自家採種され、湿潤な気候に適応してきた地域固有の品種です。

「もがみべにばな」の収穫では、開花後約1週間の短い期間の中、早朝の限られた時間内に花卉を一輪ずつ摘み取ります。そして、それを用いて紅餅を作っています。近年、高齢化等により、摘み取り作業や紅餅づくりにおける労働力の確保が、喫緊の課題となっています。こうしたことから、地域外の民間企業が継続的に摘み取り作業を支援することは、課題解決の一助となる取組みです。また、江戸時代から長年にわたり紅花を取り扱う伝統ある企業が、当地域で生産される「もがみべにばな」の魅力を様々な機会を通じて広く発信してくださることは、当地域の認知度向上や豊かな自然環境のPRに繋がっています。

企業の声



原料は、「もがみべにばな」に含まれる赤色色素だけ。日本の昔ながらの化粧品「小町紅」

伊勢半ホールディングスは、200年にわたり紅花から抽出する伝統色「紅」を作り続けています。なかでも当社の化粧料「小町紅」が放つ玉虫色の輝きは、「もがみべにばな」なくしては生み出せない特別な色彩です。この日本が技を尽くして生んだ世界でも稀有な色彩文化を未来へ受け継ぐため、当社は東京・表参道の「紅ミュージアム」を拠点に、紅に関する情報を発信しています。「もがみべにばな」は、歴史文化や自然科学など多様な視点から学びを得られる奥深い魅力をもつ存在です。また、紅花摘みは里山の豊かな自然に触れながら、原材料である紅花が育まれる環境や生産の営みを直接学べる貴重な機会でもあります。当社は農業遺産サポーターとして地域と連携しながら、こうした魅力をより多くの方に知っていただけるよう、今後も取り組みを続けてまいります。